

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

腫瘍センター



2025. 1 Vol.57

① 須藤副院長挨拶 ② ③ ④ 特集 腫瘍センター ⑤ 看護部通信 ～看護安全リレーメッセージ～ 看護部全体の取り組みについて ⑥ 地域医療連携ニュース がん相談支援センターを知っていますか？ ⑦ インフォメーション 職員表彰【山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰、令和6年度病院優良職員表彰】、特定行為研修指定研修機関に指定、広報番組放送予定、編集後記
外来診察担当医表（別紙）



がん治療の進歩と 当院での取り組み

副院長／消化器外科診療部長
腫瘍センター長

須藤 隆一郎

がん治療の進歩

がん治療は、従来からの手術療法、抗がん剤治療、放射線治療の進歩に加え、がん免疫療法、がんゲノム医療の登場により大きく変化しています。

手術療法は、すでに開腹・開胸手術から腹腔鏡・胸腔鏡を用いた鏡視下手術に移行し傷が小さな低侵襲手術が主流となっています。さらに、手術支援ロボットを用いた手術もかなりの疾患が保険適応となり急速な広がりを見せています。当院でもすでに前立腺がん・胃がん・腎がんの手術を開始し順次適応疾患の拡大を進めています。

近年の抗がん剤治療のキーワードは個別化治療です。これまでの原発臓器別の画一的な治療から、がん細胞が有する特定のタンパク質などを標的とした、分子標的薬の開発が進んだ事により個人個人に合った治療薬の選択が進んでいます。さらに、がん細胞の遺伝子を検索することで遺伝子変異に基づき治療薬を決定するがんゲノム医療の登場で、遺伝子変異別の治療が導入されつつあります。また免疫チェックポイント阻害薬を用いた免疫療法の登場も、がん薬物療法に大きな革命をもたらしたと言えます。

当院での取り組み

当院は「住んでいるところで質の高いがん医療が受けられること」を目標に、厚生労働大臣が定めた「地域がん診療連携拠点病院」や遺伝子パネル検査が可能となる「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、県内におけるがん治療の中核病院の1つです。

がん診療に対しては数多くの取り組みを行ってきましたが、主なものでは、外来抗がん剤治療を安全に行うため多職種によるサポート体制を充実させた外来治療室の運用、消化器疾患の最適な治療を目指した消化器病センターの設立、低侵襲手術の推進を目的とした低侵襲外科・手術支援ロボットセンターの設立、画像診断の精度をあげるための3TMRIや県内初となる半導体PET/CTの導入、放射線治療の充実を目指した放射線治療科、がんゲノム医療に対応できる遺伝診療科の設立など多岐にわたります。さらには、これら多くのがん診療に関わる診療科や部門の連携を強化する目的で2024年4月1日より病院長をトップとする「腫瘍センター」を設立しました。

同年8月には運営体制を変更し、病院長から引き継ぎ、私がセンター長に就任しました。今後も腫瘍センターを中心に、「質の高いがん医療」の実践を目指し病院一丸となって取り組んでまいります。



特集 | 腫瘍センター

総合病院だからこそ、できる 質の高い医療を提供します。 院長 武藤 正彦

腫瘍センターは「がん総合診療部」としての機能を有するセンターであることを目指して、2024年4月に開設しました。当医療センターは、今年創立75周年を迎え、病に苦しむ県民の皆様を救うべく、門戸を開いてきました。

現在37科からなる専門診療科を擁し、各科に臓器別の高度で専門的な医療を行うプロフェッショナルな医師を数多く揃えています。また、高度急性期病院として広く地域医療の中核を担っています。

現在は、がんと共生しながらうまく生きていくことができる時代に突入してきました。総合病院であるがゆえに、がん治療のみならず心不全や肺炎などの合併症にも柔軟に対応できる強味を持っているのです。

腫瘍センターでは、がん薬物療法部門、放射線治療部門、高精度で体に負担の少ないロボット支援手術(ダビンチXi)を泌尿器科領域を中心に行っており、消化器外科その他の領域のがんにも導入するべく鋭意準備を進めています。部門横断的な手術支援ロボットセンターを同時に立ち上げ、安全で機能温存・低侵襲といった質の高い手術が安定して維持できるように配慮しています。呼吸器外科で行っている肺がんの手術は体に負担の少ない胸腔鏡手術(VATS・video-assisted thoracic surgery)を基本に行っており、1996年から開始し2023年は63件の胸腔鏡手術を行いました。

その他、当院はがんゲノム医療連携病院として認定されています。がん遺伝子パネル検査を開始した2023年2月から現在まで42件以上の実績を持っています。その他に、腫瘍センターにはがん患者サポート部門を併せて設置しました。この部門はがんの患者さんに「寄り添う医療」を提供していきたいとの願いの下に新しく設けました。経験豊富な多職種のスペシャリストが集まっていますので、垣根を超えた連携で患者さん中心の医療提供体制の枠組みをつくっていく予定です。

当腫瘍センターが、皆様のがん治療に貢献できるように職員一同邁進していく所存です。



キックオフミーティング

特集 | 腫瘍センター



多職種カンファレンス

中島 好晃 副センター長 | 放射線治療科診療部長

高齢化に伴い、がん患者さんの年齢は年々上昇しています。高齢患者では、基礎疾患の合併や全身状態の悪化が影響し、外科的治療や薬物療法が困難になることが増えています。そのため、体への負担が比較的少ない放射線治療が選択されるケースが多くなっています。

また、放射線治療をはじめとするがん治療技術の進歩により、薬物療法や外科療法との組み合わせ、さらには放射線治療単独でも根治が期待できる疾患が増えています。

こうした背景を踏まえ、がん患者一人ひとりに最適な治療法を選ぶためには、各治療部門の連携が不可欠です。

腫瘍センターの設立により、各部門が横断的にディスカッションできる環境が整いました。放射線科医として、放射線治療、血管内治療、放射線診断の知識を活かし、各部門との連携を通じて、がん患者さんに最適な治療法を提供できるよう努めていきたいと考えています。



松本 洋明 副センター長 | 泌尿器科診療部長

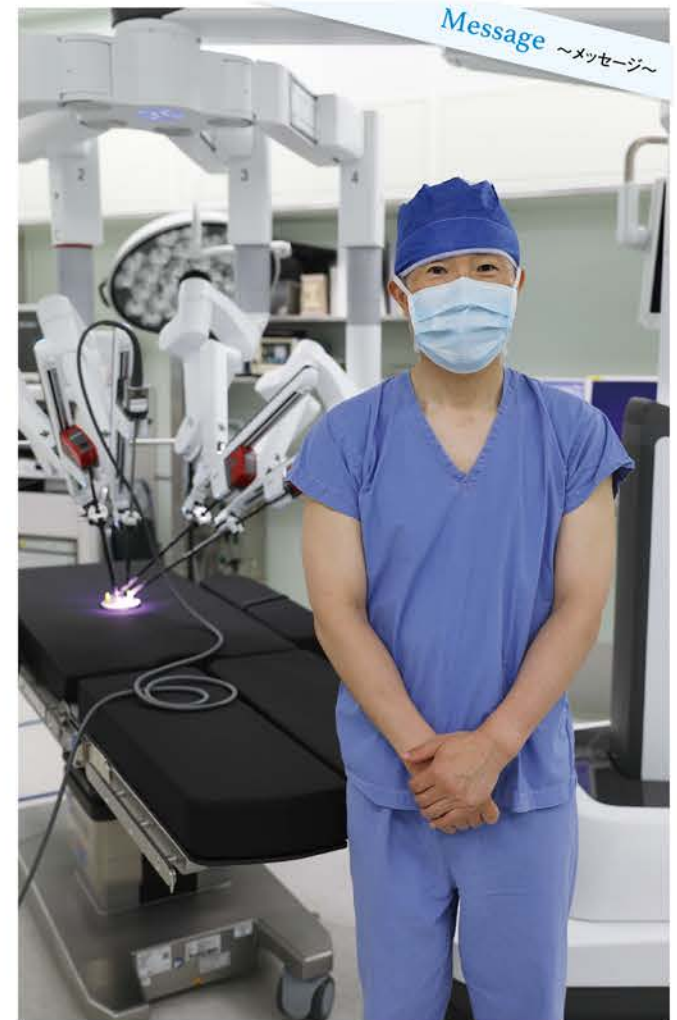
腫瘍センターの副センター長の松本と申します。

腫瘍センターの役割は腫瘍治療に関する様々なサポートをさせて頂く部署となりますが、その中で重要な役割の一つとして患者さんに治療に関する様々な情報を提供していくことがあると思います。私は泌尿器科を専門としていますので、泌尿器科領域を含めた外科的治療のお話をさせて頂こうと存じます。

腫瘍治療の3本柱はいわゆる抗癌剤を含めた薬物療法、放射線療法、それから外科的治療となります。外科的治療には様々な技術が含まれ、近年は医療機器の進歩に伴い、内視鏡的に腫瘍を切除するといういわゆるおなかを切らない治療も発展しています。当院でも消化器内科での内視鏡的腫瘍切除はじめ泌尿器科領域でも硬性鏡、軟性鏡を用いた低侵襲手術を行っています。その中で腫瘍の取り残しを極力なくすための腫瘍可視化技術も重要であり、最近健康食品でも販売されている5-アミノレブリン酸を内服後、蛍光膀胱鏡を用いて腫瘍を特異的に発光させ腫瘍の完全切除を行う光力学医療を当院でも取り入れ、再発による再手術率の低減に取り組んでいます。

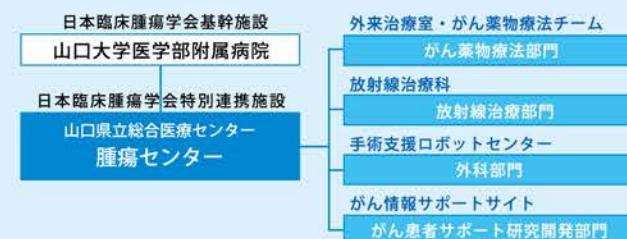
また、おなかを切るとしても極力低侵襲な治療として腹腔鏡手術も積極的に行っており、当院では2023年9月よりダヴィンチによるロボット支援手術が可能となっています。手術支援ロボットを用いるとおなかの狭い空間でも精細な3D映像のもとで手振れのない正確な手術操作が可能であり、従来の腹腔鏡手術と比較し圧倒的な技術的アドバンテージがあります。泌尿器科領域では前立腺全摘除術、腎部分切除術、腎盂形成術が実施可能であり、外科領域でも胃切除術をはじめ様々な術式に適応拡大を進めているところです。

内科的治療と外科的治療は車の両輪のごとく、ともに発展させていく必要があり、最新の医療、体へのより負担の少ない治療を積極的に取り入れ、いろんな方との情報共有を図ることで患者さんへのより良い医療が提供できるように腫瘍センターとして活動できればと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。



腫瘍センタースタッフ

- ◆ センター長 須藤 隆一郎（副院長・消化器外科診療部長）
- ◆ センター長補佐 井岡 達也（山口大学医学部附属病院 准教授）
- ◆ 副センター長 中島 好晃（放射線治療科診療部長）
松本 洋明（泌尿器科診療部長）



看護部
通信



～看護安全リレーメッセージ～ 看護部全体の取り組みについて

看護副部長(救急看護認定看護師) 池田 美智子



当院は、第三次救急医療、高度急性期医療を担う基幹病院です。
救急車を断らない救急医療の使命があり、県民の健康と生命を守る役割があります。県内唯一の基幹災害拠点病院、第一種感染症指定医療機関などの高度専門医療や特殊医療を提供しています。いざという時でも力を発揮する事を目標としてトレーニングや経験・学習を積み上げています。

高齢化率の上昇と疾病の複雑さ、重症度や緊急度の高い状況から鑑みると、さらなる安全管理の徹底と、安全な職場環境づくりに取り組む必要性があります。

私は、今年度の4月より看護部質管理担当副部長となり、医療安全推進室を兼務し安全管理を担当しています。また、救急看護認定看護師としてフィジカルアセスメント、患者急変対応、トリアージなどの研修開催や、呼吸ケアサポートチーム、院内急変迅速対応チーム(Rapid Response System、以下RRS)に所属し活動をしています。RRSは院内で急激に重症化する患者さんが心肺停止に至る前にいち早く察知し対応することで予期せぬ死亡を減らすことを目的とする院内システムです。「気づきの力」を大切に、異常に気づくことで急変を予防しています。また、実践の中で一つの事象を紐解いて確かな根拠を言語化することで、医療安全管理に努めています。

今年度のキーワードは、「安全」です。看護安全委員会・主任会の力をもって、急変対応に強いスタッフを育成するために動画研修を作成しました。安全文化の醸成を図り、安全管理の強化をしていきたいと考えています。

安全意識や体制強化をするために、RRS普及に加えてラウンドも開始しました。これにより、院内での急変対応能力(気づきの力)の向上をサポートし、急変の予防に努めています。また、RRS症例解析や、振り返りも行っています。そして、緊急時、慌てず対応できるようにするために、救急カートの整備及び院内統一化を図りました。

高度急性期病院として急変対応能力・即応力を備えていくことを目指し「県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する」という病院の理念に向かって尽力していくことが必要です。

専門職業人として、患者の安全、スタッフの安全を確保しながら患者さんの命を救い、生活を支え、安心安全で質の高い看護を提供し、地域へ看護をつないでいきたいと考えています。



がん相談支援センターを知っていますか？

「がん」という言葉を聞いたとき、どう思われたでしょう。
「がん」と向き合ったとき、さまざまな悩みや辛さが生じます。
ひとりで悩み、ひとりで考える「じかん」も必要ですが、もし、誰かに相談したいと思われたときは…

がん相談支援センターのリーフレット「ひとりで悩んでいませんか？」御案内の書き出し文章です。
リーフレットは、院内にご自由に手に取っていただけるよう病棟や外来に設置させていただいておりますが、ご覧になられたことはありますか？

がん相談支援センターは、がん診療連携拠点病院等に設置されている「がんの相談窓口」です。
当院は、山口防府保健医療圏の地域がん診療連携拠点病院として、2003年12月に指定されました。
院内に設置されている相談窓口ではありますが、院内だけでなく、院外の患者さん、御家族の方も無料でそして匿名でご利用いただけます。国立研究開発法人国立がん研究センターの研修を受講し認定を受けたがん専門相談員を中心に、看護、福祉等それぞれの専門性も活かしながら、相談支援対応をさせていただいております。
がんが疑われるとき、治療中、経過観察中、どんなタイミングでもご利用できます。主治医に代わって、患者さんの病気の診断や治療法を決定することはありませんが、ガイドラインに沿った治療の流れ、アピアランスケアの補助、医療費のことなど、介護保険申請や療養に関する様々な疑問や悩みについて相談ができ、内容は同意なく他の人に知られることはありません。

相談方法は、メール、電話のほか対面で、特に予約は必要ありません。
対面相談は、相談室を利用し、プライバシーに配慮して実施をしています。
入院の方については、病棟に訪室してご対応させていただいております。

2人に1人はがんになる時代です。
その方々全員に相談や情報提供を押し付けるものではありませんが、必要な方が、必要な時に、相談できる場として、院内にセンターがあることを思い出していただけるよう、そんな存在でありたいと思います。
みなさま、リーフレットをどうぞ活用ください。



がんの相談窓口

電話相談：0835-28-8127 ※8時30分～17時15分
(土・日・祝日・12/29～1/3を除く)

E-mail：soudan@ymghp.jp



○職員表彰(病院優良職員表彰等)

手嶋 ひさ子薬剤部長 ▲

▲高橋 由加利看護副部長

山口県健康福祉功労者(優良看護職員)知事表彰

多年にわたり看護業務に従事し、県民の保健福祉の向上に顕著な功績があり、他の模範となる職員に対して表彰されます。当院からは看護部の高橋 由加利看護副部長が受賞し、令和6年度公益社団法人山口県看護協会通常総会において表彰式が執り行われました。

令和6年度病院優良職員表彰

長きにわたり病院職員として病院の発展に尽力した職員に対して一般社団法人山口県病院協会から表彰されます。当院の薬剤部の手嶋 ひさ子部長が受賞しました。



○特定行為研修指定研修機関に指定

厚生労働省より「特定行為研修指定研修機関」に指定されました。特定行為研修制度は、保健師助産師看護師法に位置付けられた研修制度で、手順書により一定の診療の補助を行う看護師を養成するものです。

やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送予定日時	放送内容	出演
3月1日(土) 18:55~19:00	受けよう消化器がん検診	消化器内視鏡内科 岡本 健志医師
3月5日(水) 16:00頃~		
4月5日(土) 18:55~19:00	ロボット支援下胃切除術	外科 原田 栄二郎医師
4月9日(水) 16:00頃~		



編集後記

腫瘍 センターは、がん患者さんとその御家族に向けて専門的な治療とサポートを提供するために、がん薬物療法チームなど多職種カンファレンスを実施しています。がん患者さんとその御家族にとって頼りになる存在であり、我々は引き続き情報提供とサポートを行っていききたいと思います。(総務課Y.N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymghp.jp/>